

第49回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2024年11月6日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 10:00～12:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

【部会②】

（1） 開会

（2） 京急線連立 東西自由通路付近の暗渠位置確認において発見された遺構について

【資料1】

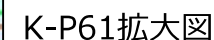
（3） 調査の進捗について

【資料2】

（4） その他

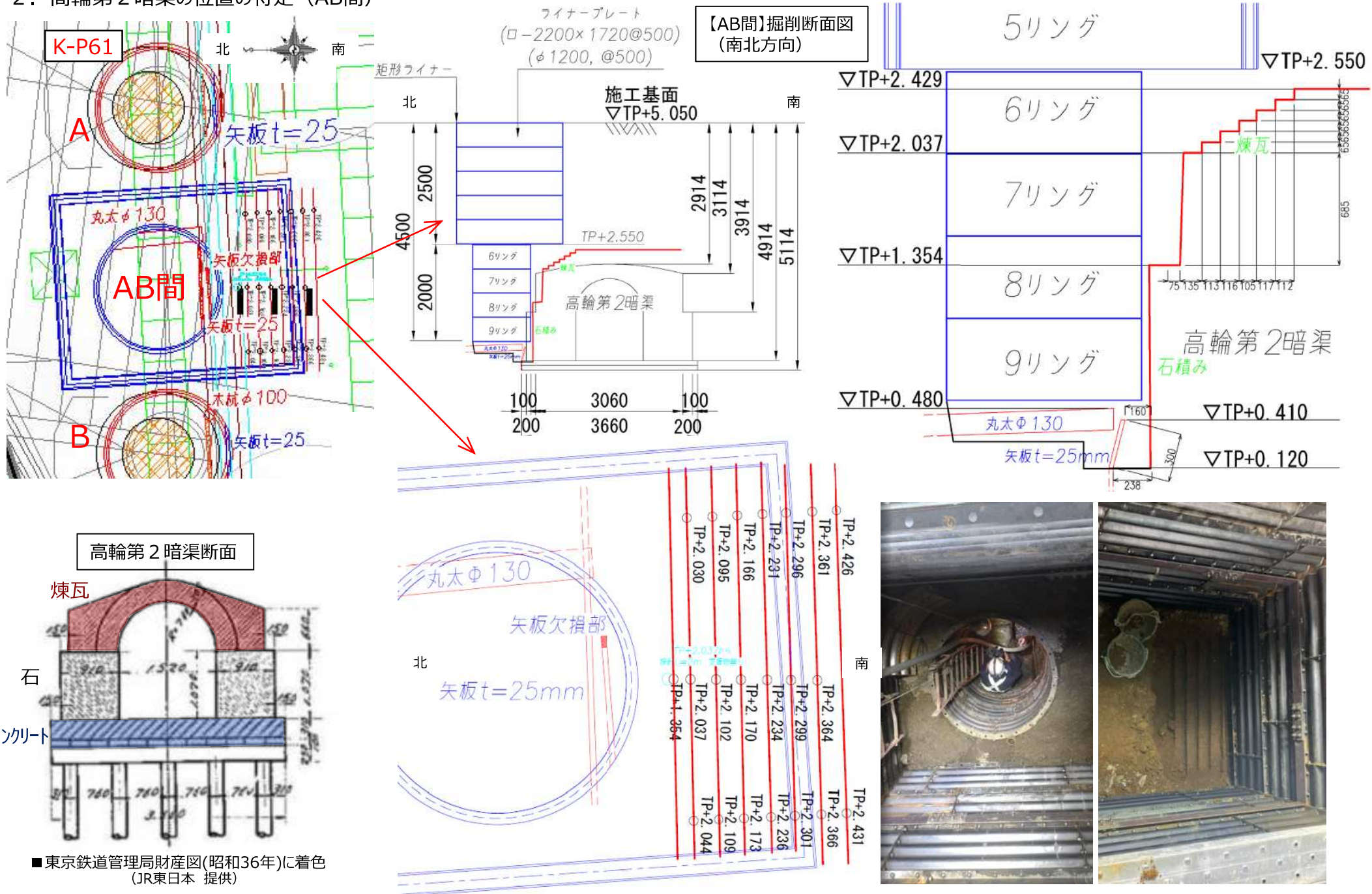
（5） 閉会

平面图

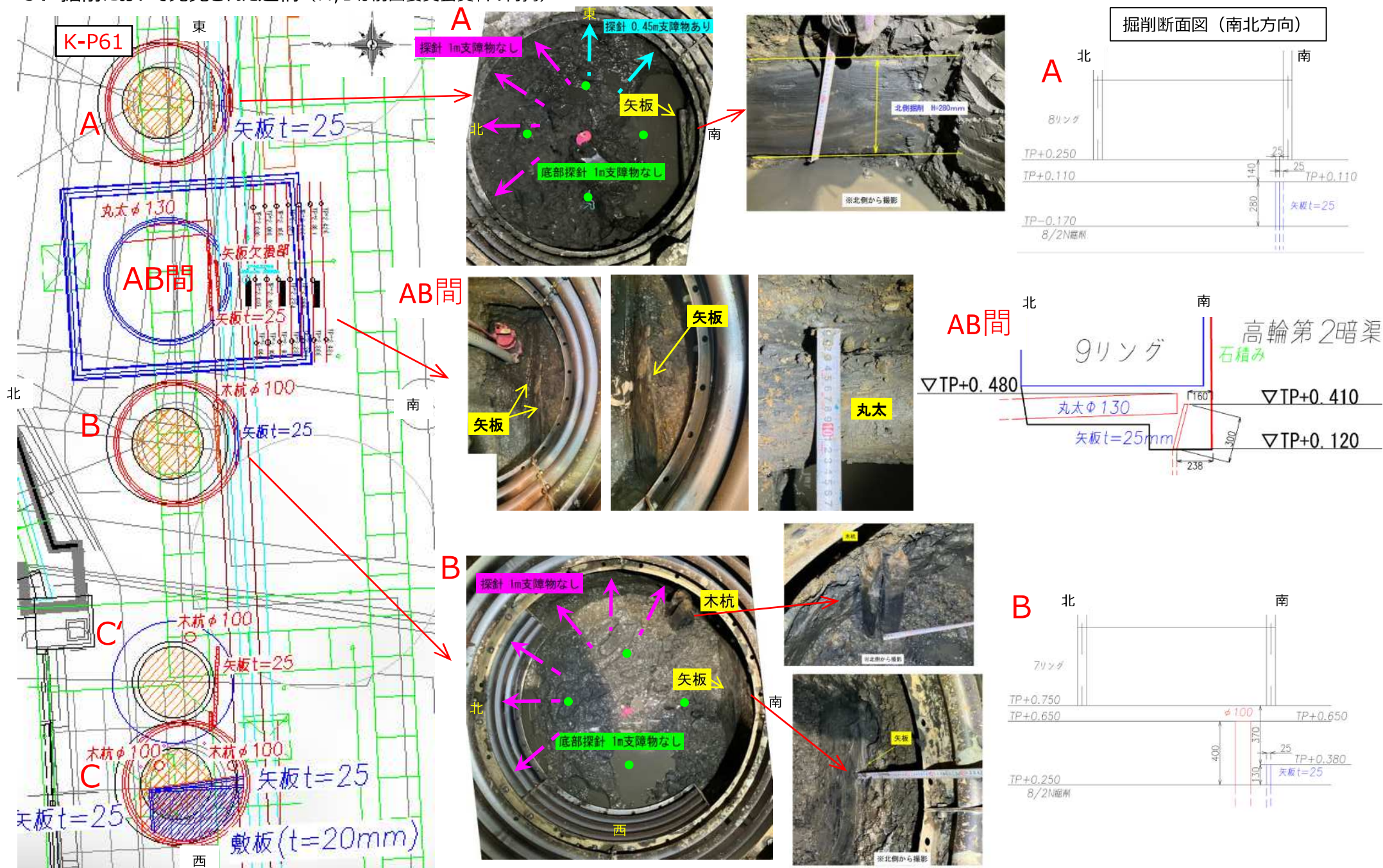


想定される高輪第2暗渠位置

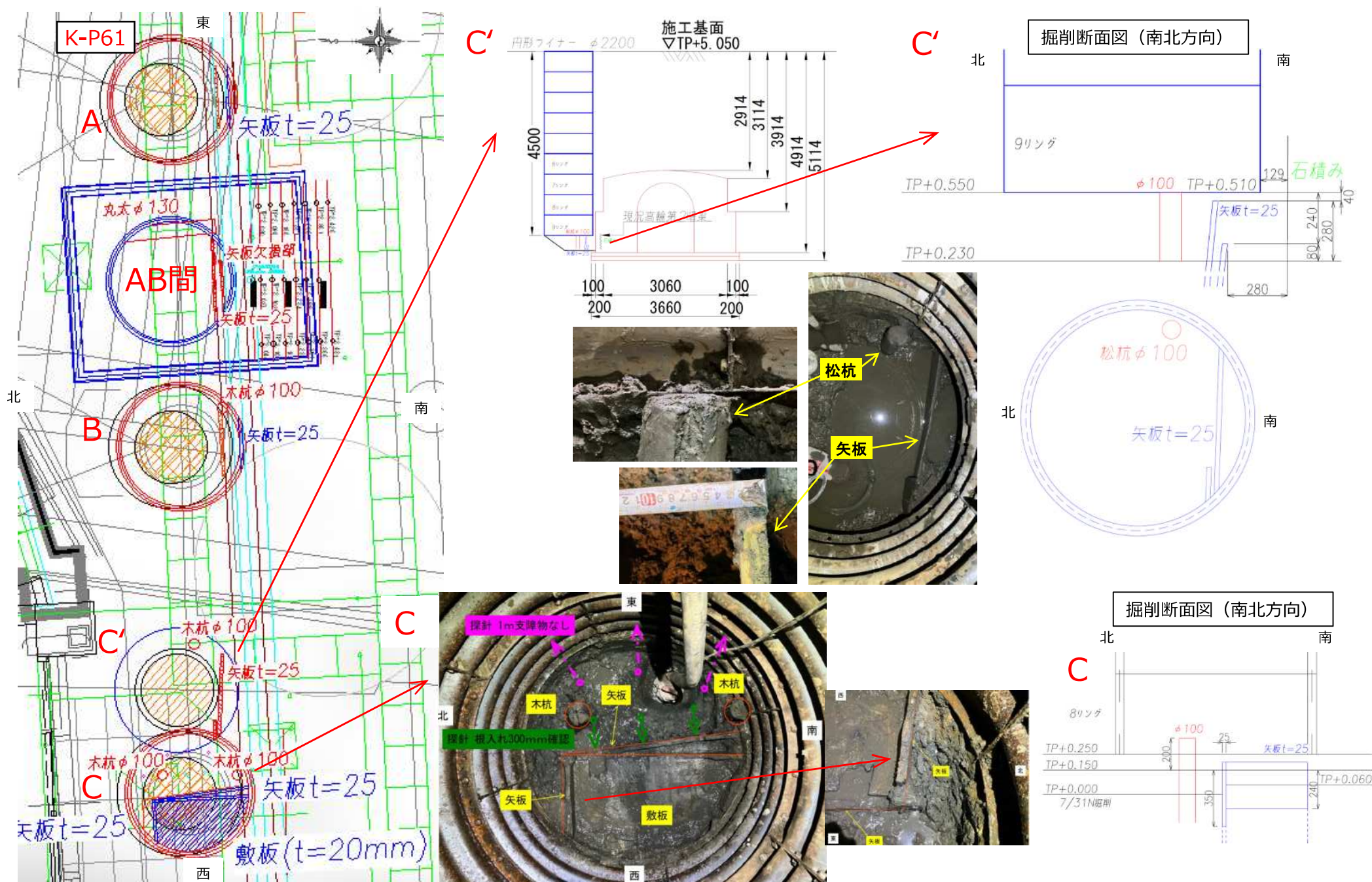
2. 高輪第2暗渠の位置の特定 (AB間)

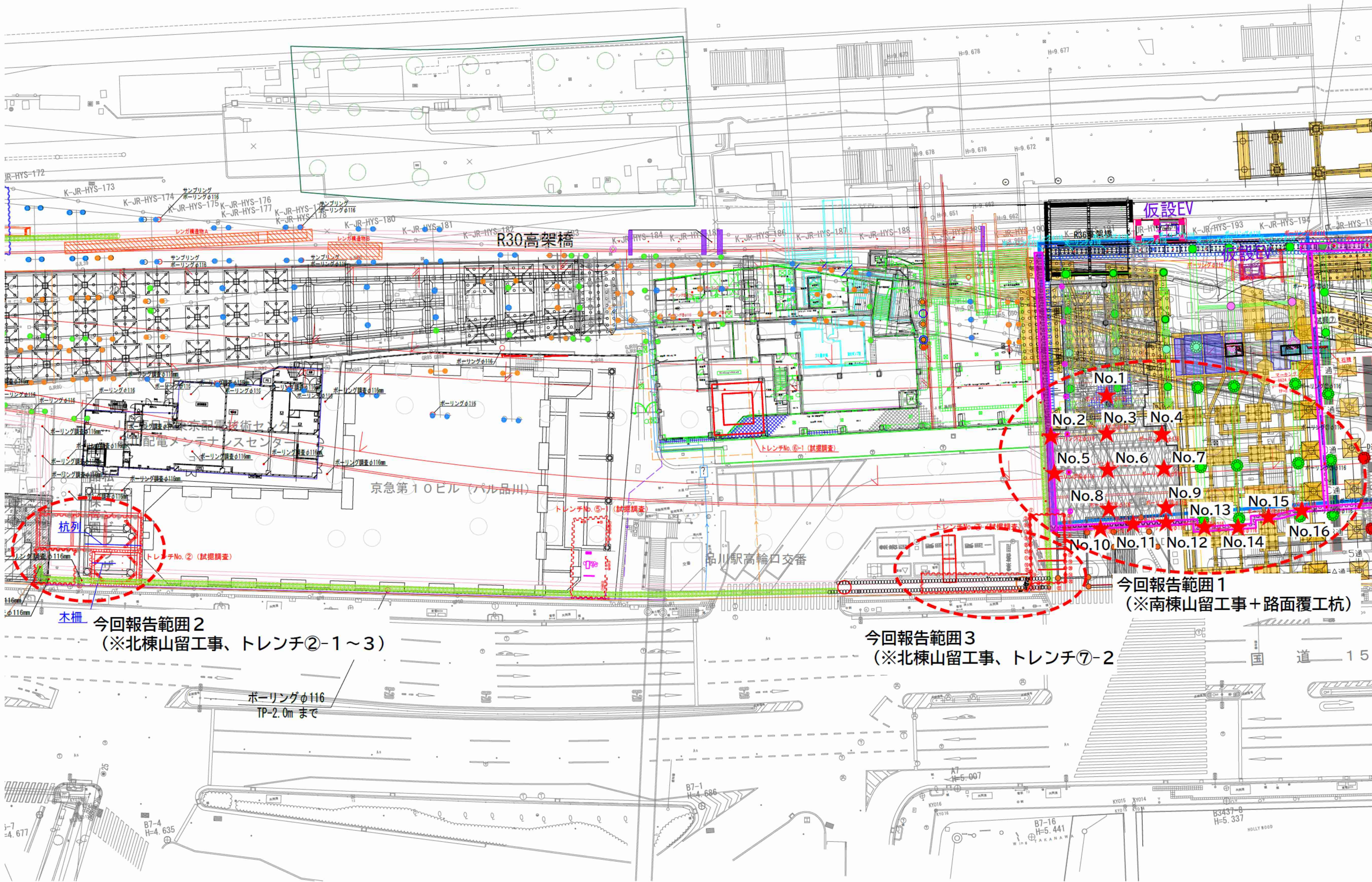


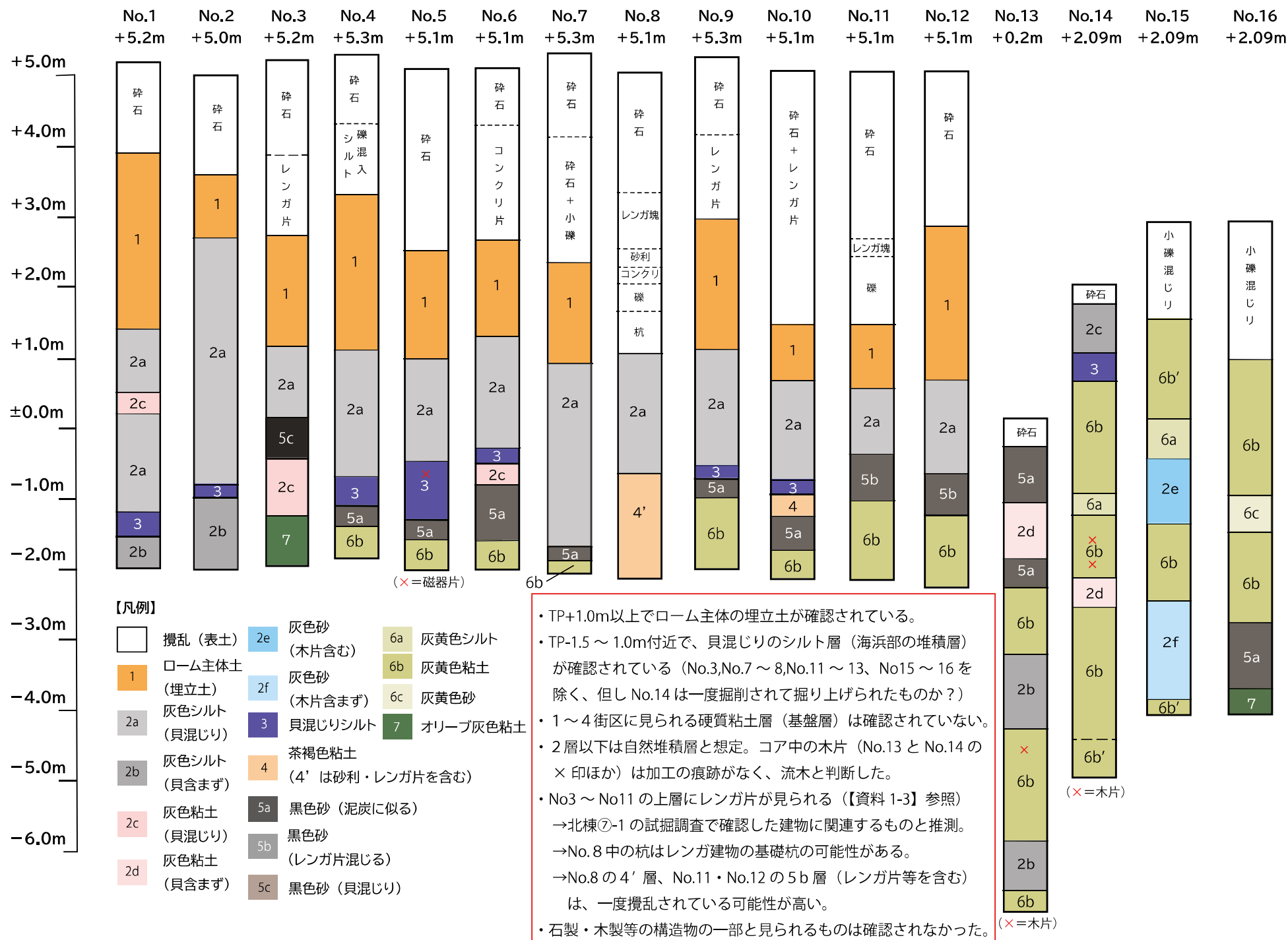
3. 掘削において発見された遺構 (A, Bは前回委員会資料の再掲)



3. 掘削において発見された遺構 (Cは前回委員会資料の再掲)







No.1



No.2



No.3



No.4



No.5



No.6



No.7



No.8



No.9



No.10



No.11



No.12



No.13



No.14



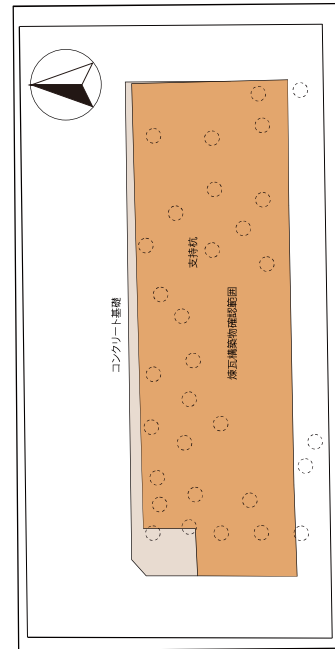
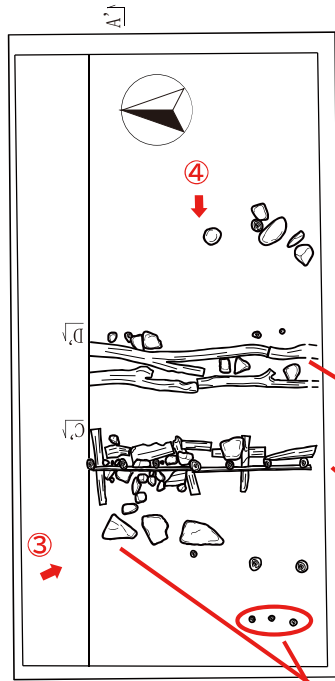
No.15



No.16



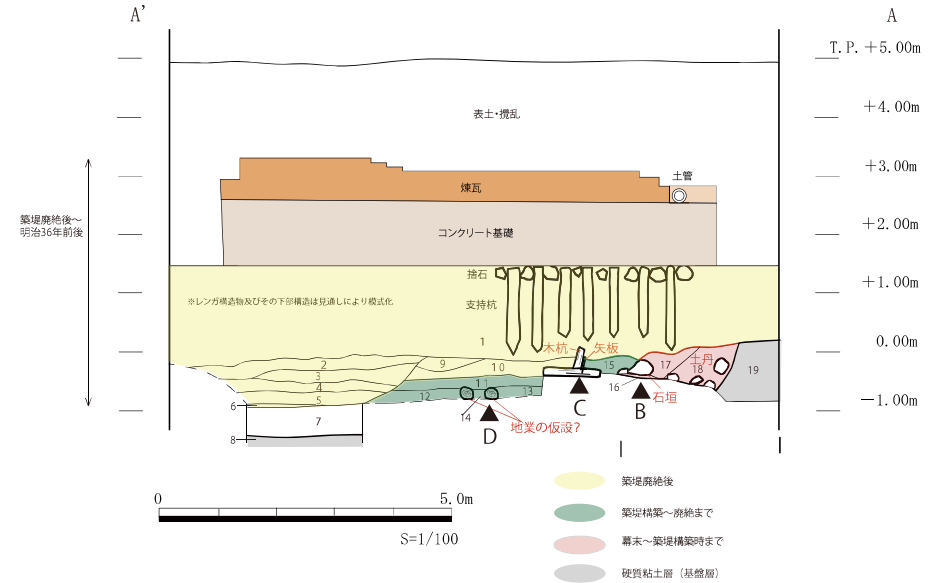
トレンチ7の調査成果について



トレンチ平面写真 (No Scale)

トレンチ平面図 (S=1/100)
上: 4段目 / 下: 2段目

トレンチ断面図 (S=1/100)



①レンガ構造物上面検出状況 (北東から)



②レンガ構造物検出状況 (北東から)



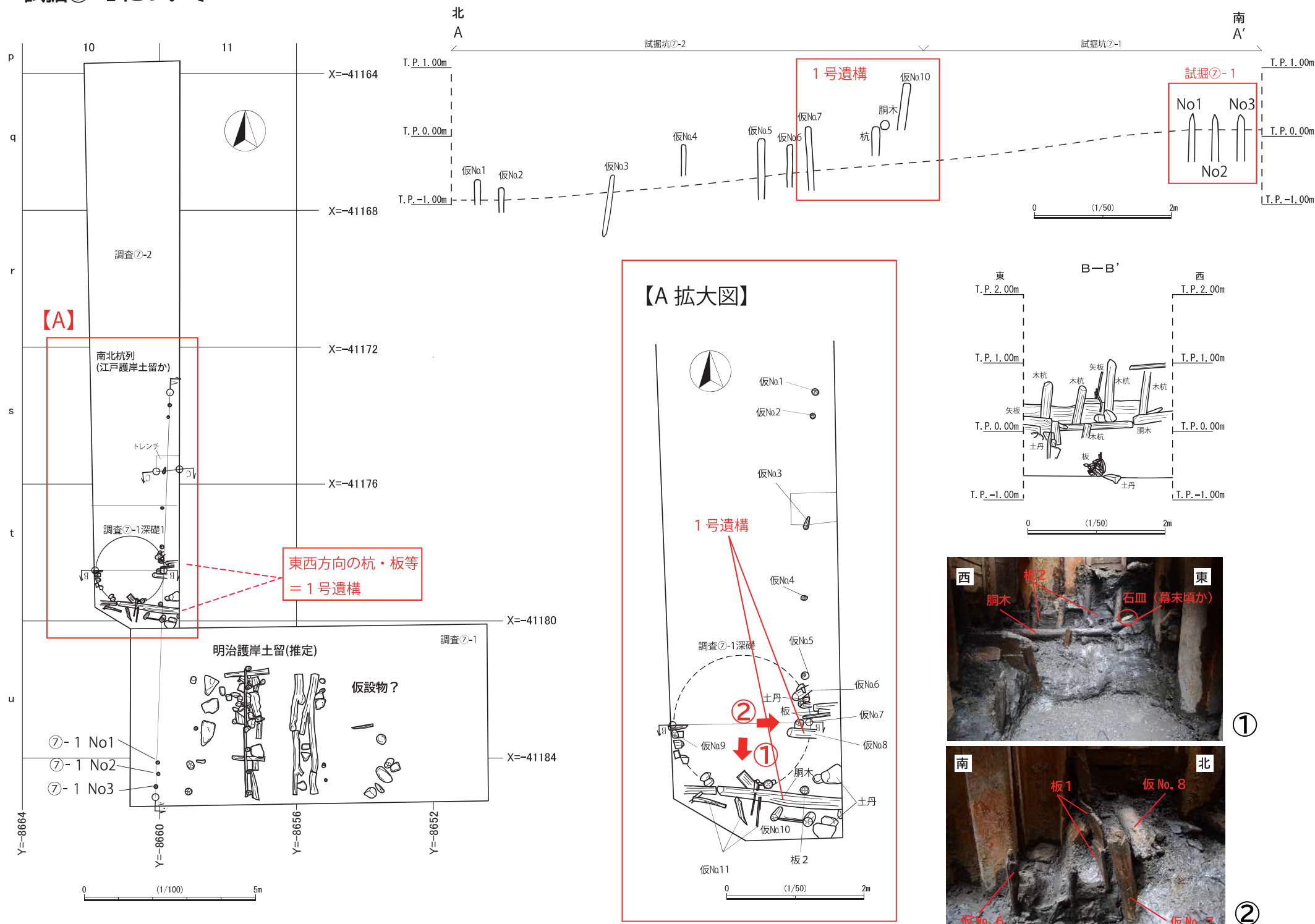
③構造物 A ~ D 検出状況 (北西から)



④構造物 B ~ D 検出状況 (東から)

試掘⑦-2 について

【資料 2-6】



図①東京郵便電信局「東京芝区全図」【明治 30（1897）年】に加筆



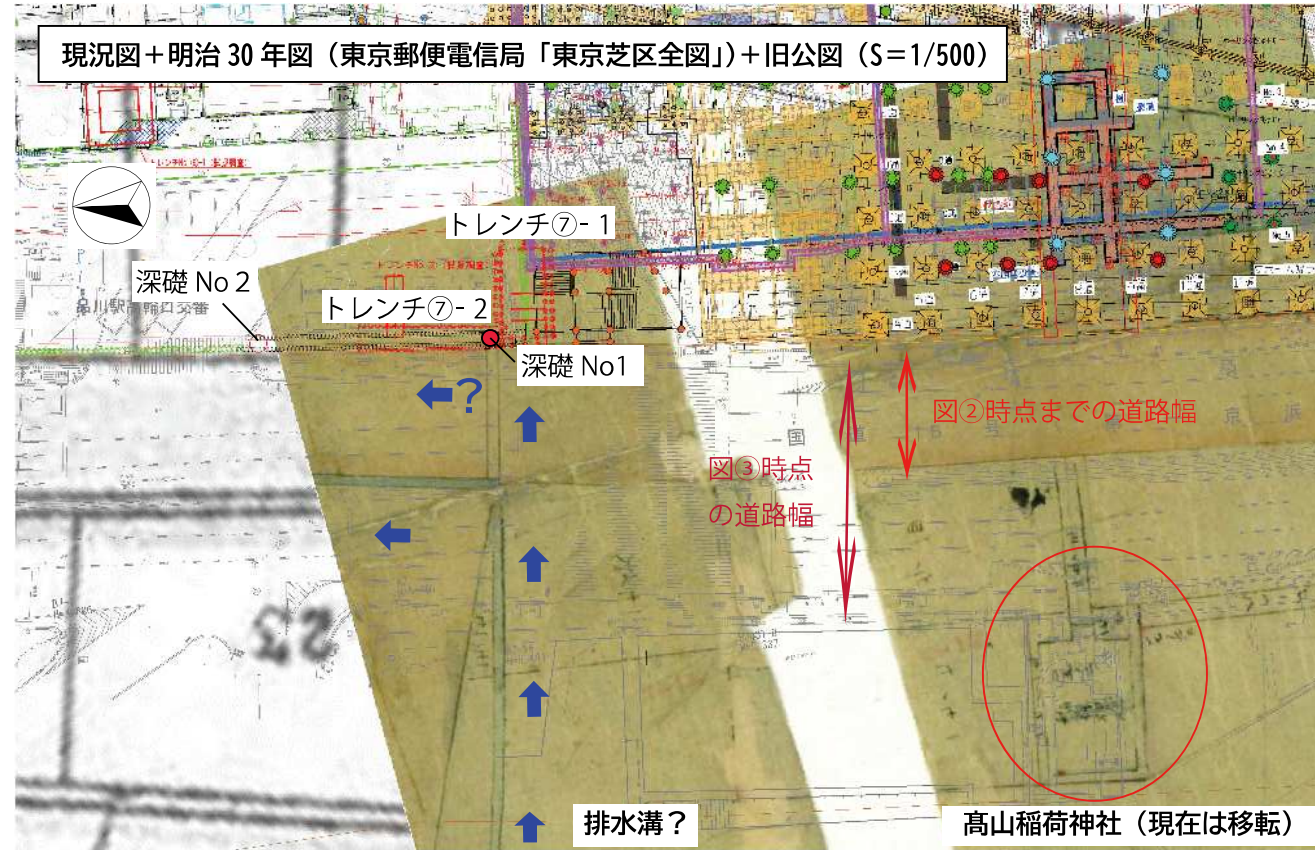
図②東京通信局「東京市芝区図」【大正 10（1921）年】に加筆



図③「東京市芝区地籍図」【昭和 9（1934）年】に加筆



現況図+明治 30 年図（東京郵便電信局「東京芝区全図」）+旧公図（S=1/500）



【南北方向の杭列について】

- (1) 杭の検出レベルは、TP-0.5m～1.0m付近である。
- (2) 検出された杭間の距離は、試掘②-2・3 の調査成果から概ね 40～60 cm であり、仮 No 1～仮 No.2、仮 No 5～仮 No.6、⑦-1No.1～No.3 の距離も同程度である。（仮 No.2～仮 No.5 の杭間距離に規則性はないが、もとは 2～3 本の杭があり、後世に撤去された可能性がある。）
- (3) 上記（1）・（2）から、17 世紀中頃以降に構築された東海道の土留めであると推測される。
- (4) 泉岳寺駅改良事業の調査で確認された板材は確認されず、後世に撤去されたのか、もともと使用されなかったのかは不明。

【1 号遺構の性格について】

- (1) 旧公図（時期不明）には、山側から海側に流れ込む排水溝？が描かれており、国道に直交してトレンチ⑦-2 の調査⑦-1 深礎位置付近で接続する。
→1 号遺構は排水溝である可能性がある。（周辺のボーリング調査等の成果から、品川駅西口付近は谷地形が入っている可能性があり、水が集まりやすいところに排水溝を作ることには違和感がない）

【1 号遺構の時期について】

- (1) 図①・図②までは、旧公図同様に、高山稲荷神社（赤○地点）の参道が国道に接続するように描かれている。
- (2) 図③では、国道が拡幅され、高山稲荷神社の本殿が国道に面するようになる。
- (3) 旧公図は上書きされていくため、どの時期の情報が描かれているか、正確に把握することは難しいが、国道拡幅前の地番が残っていることから、昭和 9 年以前の土地情報が記載されていると推察した。
- (4) 国道の拡幅に伴い、昭和 9 年頃には山側からの排水溝？の一部は国道用地となり暗渠化、もしくは廃止になった可能性があり、仮に廃止になっていれば、1 号遺構は昭和 9 年以前に構築、使用されていたと考える。
- (5) 現在使用されている幹線下水路は「高輪第 2 暗渠」であり、高輪第 2 暗渠を構築した際に 1 号遺構が使用停止になった可能性も考えられるが、検証には更なる精査が必要である。